

サプライチェーンにおける海上貨物追跡タグシステム(MATTS)の実証実験の実施について

米国国土安全保障省(DHS)において開発が進められている海上貨物追跡タグシステム (Marine Asset Tag Tracking System : MATTS) について、サプライチェーンにおける実用性検証のため、日本-米国間の海上コンテナ貨物の輸送について本年度の実証実験を開始しました。

MATTS は DHS の総合的な貨物安全戦略の一部として開発中の地球規模の通信および追跡を遠隔操作により可能にするデバイスです。MATTS はサプライチェーン上の多数のポイントから、無線 LAN、携帯通信網、衛星無線網など複数の通信プロトコルを用いてコンテナの状況や位置をリアルタイムで送信することにより、総合的な輸送におけるその他のニーズにも応用することが可能です。

本実験は、日米科学技術協力協定における日米安全安心科学技術協力イニシアティブのもと、DHS の要請に基づき国土交通省港湾局が支援して実施しているものであり、昨年は基礎的な輸送実証実験を横浜港発で行っています。

今年の実験では、サプライチェーンへの適用をより重視し、日本国内の工場から米国内陸部の工場まで Door to Door の追跡実験を行うほか、荷主、フォワーダー、荷受人企業に参加いただき、SCM としての有効性の確認を行うこととしています。

MATTS 実験概要

1. 実験概要

MATTS 通信機器を取り付けたコンテナを日本国内の工場から米国内の工場まで輸送、サプライチェーン上での貨物ロケーションを追跡する。

2. 実施場所 ※今後さらに追加予定

- ①日産自動車本牧専用埠頭⇒横浜港 APL ターミナル⇒米国ロサンゼルス港 APL ターミナル⇒北米日産会社デカト工場 (テネシー州)
- ②関東地区キャン物流センター⇒東京港 NYK ターミナル⇒米国ロサンゼルス港 NYK ターミナル⇒米国西岸/東岸キャン物流センター
- ③トピー工業株式会社綾瀬製造所⇒横浜港 Maersk ターミナル⇒米国ロサンゼルス港 Maersk ターミナル⇒トピーアメリカ, INC. (イリノイ州)

3. 実験参加者 ※今後さらに参画いただく予定

国土交通省港湾局、横浜港運協会、双日株式会社、米国国土安全保障省、iControl Incorporated、日産自動車株式会社、株式会社バンテック、American President Lines, Ltd.、キャン株式会社、株式会社 MTI、日本郵船株式会社、トピー工業株式会社、三菱倉庫株式会社、Maersk Line

4. 実験期間

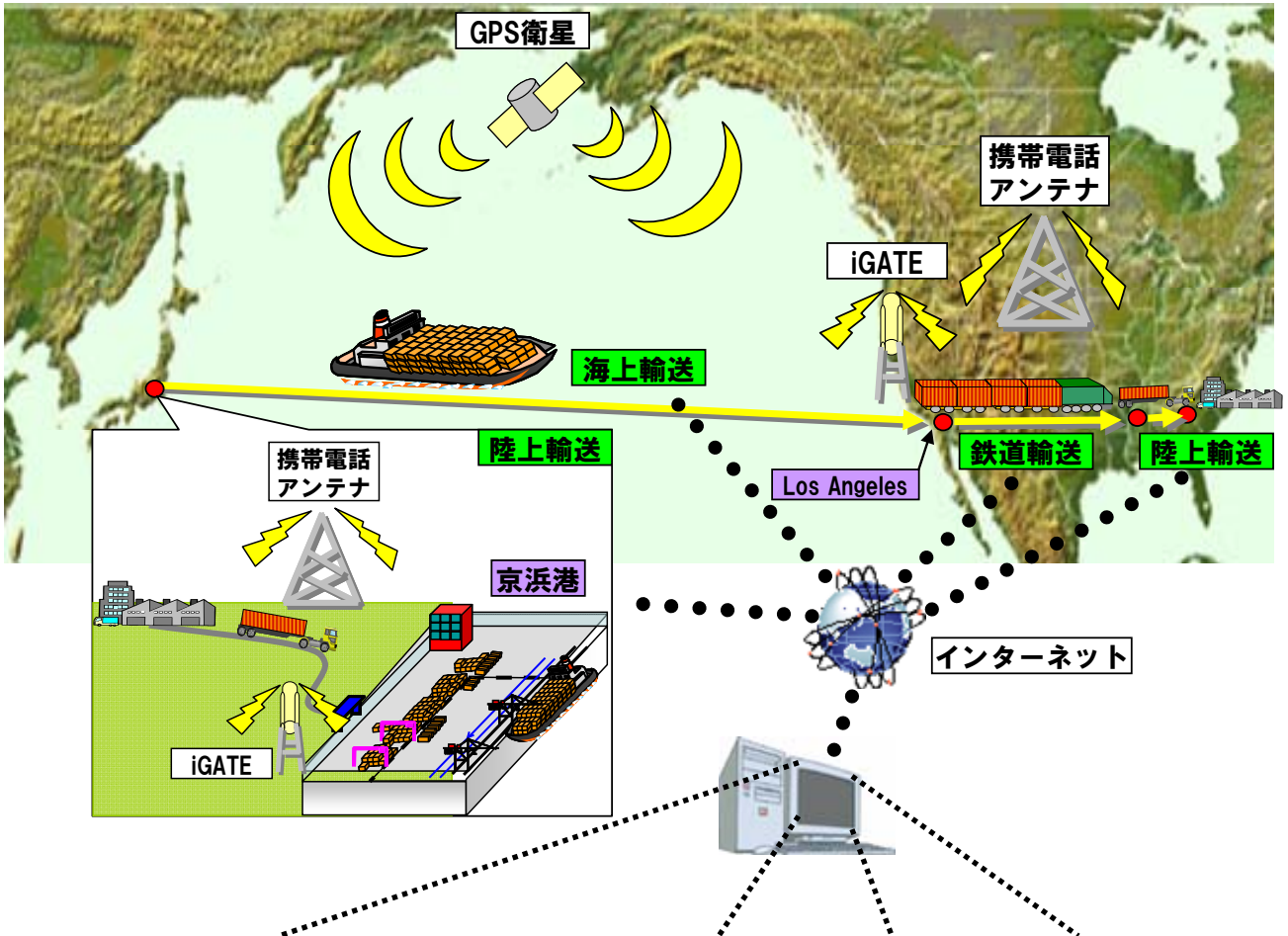
7 月 26 日のシブメント (横浜港 APL ターミナル) から順次開始し、本年末頃終了予定

※ この発表は双日株式会社、株式会社 MTI、日本郵船株式会社、三菱倉庫株式会社と同時発表を行っております。

【問い合わせ先】	国土交通省港湾局港湾経済課 港湾情報化推進室 室長 田中(46641) 課長補佐 久田(46642) 代表 03-5253-8111 直通 03-5253-8629
----------	--

参考資料

【MATTTSのイメージ】



iVIEW

The screenshot shows the iVIEW web interface. It features a map of the Pacific coast with tracking points A through S. The interface includes a navigation pane, a calendar, and a table of route waypoints.

GMT	Latitude	Longitude
2005-08-31 15:40:00	37.8000044	122.2736724
2005-08-31 15:38:00	37.7394003	122.2742398
2005-08-31 15:37:00	37.7362037	122.2654479
2005-08-31 15:36:00	37.7007582	122.2601089
2005-08-31 15:35:00	37.7076871	122.2496126
2005-08-31 15:34:00	37.7636636	122.2393836
2005-08-31		

サプライチェーン全体を通じてトラッキング